

4 本時の学習

(1) ねらい

相手のことを真剣に考えて行動することこそが本当の思いやり・真のやさしさであることに気づき、その思いやりの気持ちを素直に表現しようとする態度を育てる。【B-(6)】

(2) 展開

過程 (時間)	学習活動	主な発問 予想される生徒の反応	指導上の留意点	備考
導入 (5)	1 視覚障がいをもった女子マラソン選手の道下美里選手について思い出す。	○道下美里選手とは、どんな方でしたか？ ・視覚障がいをもったマラソンランナー ・リオパラリンピック銀メダリスト	○立志式で講演していただいた道下選手について触れることで、障がい者スポーツや伴走者の存在を想起させる。	電子黒板 (写真)
展開 (35)	2 資料を読み、印象に残った場面を押さえる。		○教師が範読し、その後に黙読しながら印象に残った場面に線を引かせる。	プリント (本文)
	学習テーマ：本当の思いやりって何だろう？			
	3 最後の場面の後、「ぼく」は介助したか、介助しなかったかを想像し、その理由も考える。 1) 個人で考える。 2) グループで話し合う。 4 「ぼく」が介助をした場合、介助しなかった場合それぞれの良い面、悪い面をグループで話し合う。 5 自分が「ぼく」だったならばどのような行動をとるかを決め、その理由も考える。	○この後、「ぼく」は介助したと思いますか？それとも、介助しなかったと思いますか？ そのように考えた理由も書いてください。 〈介助した〉 ・ひろしくんの体のことが心配だから ・伴走者として、安全を第一に考えるべき ・また次の機会に挑戦すればよいから 〈介助しなかった〉 ・自分の力で完走したいと言っているから ・今までがんばってきたことを無駄にしないから ・本人の意思を尊重するべきだから ○「ぼく」が介助をした場合、介助しなかった場合には、それぞれどんな良い面、悪い面があるでしょうか？ 〈介助した場合の良い面〉 ・ひろしくんが大けがをせずにすむ ・伴走者としての責任を果たせる 〈介助した場合の悪い面〉 ・ひろしくんから恨まれるかもしれない ・二人の夢を叶えることができない 〈介助しなかった場合の良い面〉 ・自力でゴールできるかもしれない ・二人の夢が叶うかもしれない 〈介助しなかった場合の悪い面〉 ・転んで大けがをするかもしれない ・伴走者としての責任を果たしていない ㊦ 介助するというのは、伴走者の責任という言葉に逃げているだけなのでは？ 介助しないというのは、ひろしくんに嫌われたくないだけなのでは？ ○あなたが「ぼく」の立場だったら、どうしますか？そのように考えた理由も書いてください。 〈介助する〉 ・友だちであるひろしくんの体のことが第一だから ・自分の気持ちをきちんと伝えれば、ひろしくんなら分かってくれるはずだから ・完走するという夢を達成するためにも、次の機会に万全の状態で見たいから 〈介助しない〉 ・友だちであるひろしくんの気持ちを一番に考えたいから ・がんばってきたひろしくんを信じて、最後まで応援してあげたいから ・時間がかかってでも、ひろしくんの夢である完走をさせてあげたいから 〈第三の選択肢〉 ・転んでけがをしないように、坂の下で黙って待ち構えておく ・「次に下がったら手を貸すよ」と告げてから、車いすの後ろで応援する	○第三者の立場から、それぞれの生徒がどちらの立場を選んでいるのかを把握するとともに、そのように考えた理由もしっかりと考えさせる。 ○主人公が介助をしたかどうかの理由を考えるだけでは思い浮かばなかった面にも目を向けさせることで、相手のことをより真剣に考えるきっかけにさせる。 ○介助するか、介助しないか、あるいは第三の選択肢を選ぶかにかかわらず、相手のことを真剣に考えた上で、自らがどう動くかを決めることこそが、本当の思いやりであり、真のやさしさであることに気付かせる。	ワークシート 電子黒板
まとめ (10)	6 本時の振り返りをする。	○今後の自分の姿を含めて、今日の授業の感想を書きましょう。	○相手のことを真剣に考えて行動することこそが本当の思いやり・真のやさしさであることに気づき、思いやりの気持ちを素直に伝えようとする実践意欲を高めさせる。	

5 本時の評価

- ・相手のことを真剣に考える中で、自らの行動を多面的・多角的に考えている。(観察・発言)
- ・相手のことを真剣に考えた上で、いくつかの選択肢の中から自らの行動を決めている。(ワークシート)